

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地			
北九州保育福祉専門学校	昭和44年2月1日	上森 哲生	福岡県京都郡苅田町上片島1575番地 (電話) 0930-23-3213			
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地			
学校法人戸早学園	昭和44年7月28日	戸早 秀暢	福岡県京都郡苅田町上片島1575番地 (電話) 0930-24-6636			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士		
教育・社会福祉	社会福祉専門課程	介護福祉科	平成6年6月21日 (文部省告示第84号)	—		
学科の目的	社会福祉法等の関係法規及び本学の建学の精神に基づき、介護福祉士として必要な専門的知識と技能を授け、人格の陶冶に務め、正しい使命感を体得させ、福祉事業の理念を涵養し、真に有能な人材を育成することを目的とする。					
認定年月日	平成27年2月27日					
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験
2年	昼間	89	55	26	10	
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80	9	0	3	7	10	
学期制度	■前期:4月1日～9月20日 ■後期:9月21日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 試験による点数と受講態度などを加味し、100点を満点とする整数によって評価する。		
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月25日～1月7日 ■学年末:3月21日～3月31日		卒業・進級条件	各学年において規定された科目をすべて受講し、成績評価において60点以上の場合、進級もしくは卒業を認定する。		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 長期欠席者はいないが、長期欠席は無断欠席に起因することが多いので、確実に連絡を取って欠席理由の把握に努める。欠席が続くときは、保護者と密に連携してその改善を図っている。		課外活動	■課外活動の種類  ■サークル活動: 無		
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成30年度卒業生) 介護保険施設、障害者支援施設等  ■就職指導内容 就職セミナー3回実施。内容:前年度の求人件数及び求人ブリーフ配布。職業実践実習(自主実習)の留意点と準備・実施。履歴書の書き方・面接指導など。 ■卒業生数: 13 人 ■就職希望者数: 10 人 ■就職者数: 10 人 ■就職率: 100 % ■卒業生に占める就職者の割合: 76.9 % ■その他  (平成30年度卒業生に関する令和1年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報)		
中途退学の現状	■中途退学者 2名 平成30年4月1日在学者 24名(平成30年4月入学者を含む) 平成31年3月31日在学者 22名(平成31年3月卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更  ■中退防止・中退者支援のための取組 授業の内容について噛み砕いて説明を行うよう、全教員で共通理解して取り組むようになっている。担任を中心に個別面談や個別指導を行う。また、保護者との連携をとり、学校生活、学業や実習の状況説明をすることで、前向きに学業に取り組めるよう協力を得ている。		■中退率 8.3%			
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 戸早学園奨学金  ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 30年度給付実績者数: 0名					
第三者による学校評価	■民間の評価機関等からの第三者評価: 無					
当該学科のホームページURL	<a href="http://tohaya.jp/khfc/">http://tohaya.jp/khfc/</a>					

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業生に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業生に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業生に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本校の教育課程に関して、幼稚園教諭、保育士として必要な実践的かつ専門的な能力を育成すべく構成されるよう、その内容を検討し、職業教育水準の向上を図ることを目的とする。併せて、委員会で検討された内容は、開催された会議ごとに意見を取りまとめたで、学校内に公表し、教育課程の改善に活用することとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本校教育課程編成委員会は、外部関係者、有識者を交え、編成している。下部組織に校内教育課程編成委員会があり、年間10回程度開催している。校内の委員会では、編成委員会での検討事項の選定とまた、編成委員会からの指導内容、助言等を教育課程やそれに関するシステム、あるいは実習等をはじめとする教育内容への具現化の検討をしつつ、本校の教育の質そのものの改善に向け取り組んでいる。このように教育課程編成委員会は本校教育指導上、重要な位置を占めている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年6月1日現在

名前	所属	任期	種別
宮崎 優	社会福祉法人 みやこ老人ホーム みやこの苑 施設長	平成31年4月1日～令和3年3月31日	③
三笠 直樹	社会福祉法人緑風会特別養護老人ホーム 吉富鳳寿園 施設長 吉富町社会福協議会理事	平成31年4月1日～令和3年3月31日	①
船越 美穂	国立大学法人 福岡教育大学 教授	平成31年4月1日～令和3年3月31日	②
後藤 伸子	社会福祉法人 北九州市福祉事業団 保育所・緑地担当課長	平成31年4月1日～令和3年3月31日	①
高原 恵子	学校法人黒木学園 徳力団地幼稚園 園長	平成31年4月1日～令和3年3月31日	③
上森 哲生	北九保育福祉専門学校 校長	平成31年4月1日～令和3年3月31日	
河合 倫子	北九保育福祉専門学校 教育課長	平成31年4月1日～令和3年3月31日	
大城 一之	北九保育福祉専門学校 学生支援室長	平成31年4月1日～令和3年3月31日	
原本 賢一	北九保育福祉専門学校 幼児教育科長	平成31年4月1日～令和3年3月31日	
堤 由加里	北九保育福祉専門学校 介護福祉科長	平成31年4月1日～令和3年3月31日	
野稻 吉継	北九保育福祉専門学校 事務長	平成31年4月1日～令和3年3月31日	
進 晃一	北九保育福祉専門学校 教務課長	平成31年4月1日～令和3年3月31日	
上霧 郁美	北九保育福祉専門学校 教務課	平成31年4月1日～令和3年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

開催時期 6月、12月

教育課程編成委員会は、年2回以上開催する。本委員会は原則として本校にて執り行うが、企業・団体等との調整が難しい場合においては、学外において意見を求めることがある。

(開催日時(実績))

平成30年度

第1回 平成30年6月5日 14:00～15:00

第2回 平成30年12月4日 14:00～15:30

令和元年度

第1回 令和元年6月4日 14:00～15:20

第2回 令和元年12月3日 14:00～予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

毎回の委員会での検討内容は、その都度、校内における教育課程編成委員会で具現化のための検討会議を開き、会議ごとに意見や方針を取りまとめた上で、職員会議において校内での公表と教育課程編成上の改善に向けて積極的に活かすように努めている。30年度は特に介護福祉科では教育の系統性を表す教育課程のツリー図作成と国家試験の対応と指導についての検討事項とが中心となった。毎回、本学科も実習指導に関する改善点等の協議・検討も行われており、委員会からの指導は本校教育活動にとって積極的に参考にしている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

各園での実習においては、幼稚園教諭及び保育士としての必要な資質・能力・技術を習得させる。乳幼児とともに活動を通して、乳幼児期の全面的な発育・発達の在り方や、個人や集団の成長過程の観察・記録の仕方、及び幼児を取り巻く環境構成等を学習させ、乳幼児のみならず、同僚や保護者との接し方をも学べるようお願いをしている。このように、多くの人との出会いから保育者としての資質を高め、教育的愛情や教育に対する使命感や責任感の醸成を目指し、人間としての大きな成長を期している。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

実習の1ヶ月前に学生各自が必要書類を持参し、施設側と実習内容の確認等を行う。さらに教員の巡回予定表を提出させ、実習園訪問の際に実習指導担当者と実習生についての意見交換や指導等の協議を行う。実習の最終日には反省会を設定し、実習を通しての学びや今後の課題等を話し合い、実習の振り返りとそのまとめを行う。学修成果の評価においては、あらかじめ5項目（人物態度・幼児理解・保育態度・保育方法・保育の反省）を設定し、4段階（ABCD）での評価基準を決定している。各項目に基づく評価と総合評価とでその評価の根拠を提示するとともに、個別面談を通して実習後の課題等、目標設定を指導してゆく。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
教育実習Ⅰ	実習は基本的目標「コミュニケーション能力の育成」「他者への配慮・おもいやり」「観察眼の育成」を目指して行う。 この実習は幼稚園での保育に参加し、幼児への理解を深めるとともに、幼稚園の機能と役割や幼稚園教諭の職務内容について学ぶことをねらいとしている。 実習園の行事や実習生の状況に応じて、見学・観察実習、参加実習、指導実習など様々な形式で実習を行い学ぶ。更に、この実習を通して学んだ課題を明確化し、幼稚園教諭としての専門性を高める機会とする。	附属苅田幼稚園、日の丸幼稚園、霧ヶ丘幼稚園、こじか幼稚園、フレンズ幼稚園、きらきら星幼稚園 他
教育実習Ⅱ	実習は基本的目標「コミュニケーション能力」「他者への配慮・おもいやり」「観察眼の育成」を目指して行う。 この実習では教育実習における保育実践を通して、幼稚園教諭として必要な資質・能力・技術を習得する。また幼稚園の様々な行事への参加や通常の教育活動及びそれ以外の活動を通して、教育的愛情や教育に対する使命感や責任感を養うことをねらいとしている。 実習園の行事や実習生の状況に応じて、観察・参加実習、指導実習など様々な形で実習を行う。 この実習を通して学んだ課題を明確化し、幼稚園教諭としての専門性を高める機会とする。	附属苅田幼稚園、日の丸幼稚園、霧ヶ丘幼稚園、こじか幼稚園、フレンズ幼稚園、きらきら星幼稚園 他
保育実習Ⅰ（保育所）	実習は、保育実習での意義や目的を理解するとともに、「コミュニケーション能力の育成」「他者への思いやり」「観察力の育成」を目指して行う。併せて、子どもの最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する。 この実習を通して学んだ課題を明確化し、次回の実習へ前向きに取り組めるようにする。	浄照保育園、日豊保育園、あけぼの愛育保育園、認定こども園コスモス、みなと保育所、むつみ保育園、八幡東さくら保育所、城野保育園、青い鳥保育園、他
保育実習Ⅰ（施設）	施設実習は保育所以外の福祉施設に行き学校で学んだことを体験し、保育士として必要な技術や支援の実際を知る。また、そこでは保護者とのようなコミュニケーションを図っているかを学び、コミュニケーション能力の向上に役立てる。一年次で学習してきた発達の過程や育ち、様々な環境の違いを現場の子ども（利用者）の姿から読み取り、現状とその背後にあるものをイメージすることができるようにする。 実習の目標が達成できたかを自己評価し、自己覚知につなげる。	児童相談所北九州市子ども総合センター、北九州乳児院、児童養護施設双葉学園、児童発達支援センター行橋みらい学園、障害者支援施設苅田学園 北九州市福祉事業団 他
保育実習Ⅱ	保育所保育士として必要な姿勢や態度及び指導の方法・技術等を習得するとともに、「コミュニケーション能力の育成」「他者への配慮・思いやり」「観察力の育成」を目指して行う。 「保育実習Ⅰ（保育所）」での保育所実習の経験をもとに、自ら実習先保育所を選択して実習することにより、保育所の目的と機能課題等より深く理解する。	第2ひまわり保育園、楠橋保育所、日豊保育園、いずみ保育園、おおぞら認定こども園、若園保育所 他
保育実習Ⅲ	実習は基本的目標「コミュニケーション能力の育成」「他者への配慮・おもいやり」「観察力の育成」を目指して行われる。 この実習では主に居住型福祉施設等で職務遂行を行う保育士として必要な能力や技能を充実・伸張することをねらいとしている。具体的には子どもや利用者のニーズについて理解し、その対応方法や援助計画の立案と実践、家族とのコミュニケーションの方法や地域との連携等の実際を学ぶ。さらにこの実習を通して学んだ課題を明確化し、保育士としての専門性を高める機会として位置付ける。	北九州乳児院、児童養護施設双葉学園、障害者支援施設みろく園、障害者支援施設第一周防学園 他

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

企業・団体等が実施する教育研修・実技研修等に教員に参加させ、自らの資質の向上を図るとともに学生への指導力の向上にも努めさせる。

教員の経験年数、専門性に関係なく、積極的に研修に参加させる。これらにより、他科目との関わり、学生や幼児との関わりを理解することにつながり、しいては自らの専門科目を見直すきっかけとなる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

1. 全国保育士養成協議会九州ブロック協議会総会

目的: 指定保育士養成校に関する申請整備と教育課程の在り方の検討

概要: 行政説明及び中央情勢報告

主催: 全国保育士養成協議会九州ブロック協議会

日程: 2018年4月28日

2. 平成30年度 全幼教春季総会並びに研修会

目的: 幼児教育に関する運営上の研修と情報交換

概要: 文部科学省現地視察報告及び幼稚園教員養成機関における近年の動向について

主催: 全国幼稚園教員養成機関連合会

日程: 2018年6月8日

3. 平成30年度 全国保育士養成協議会総会研修会

目的: 幼児教育を取り巻く状況変化への的確な対応

概要: 保育行政全般と指定保育士申請の説明及び中央情勢報告

主催: 全国保育士養成協議会

日程: 2018年6月9日

4. 北九州市私立幼稚園連盟創立記念総会及び研修会

目的: 企業及びその団体の連携を深め、互いの理解促進及び求められる人材像の把握

概要: 今後の幼児教育の在り方について文部科学省からの講演と実践発表

主催: 北九州市私立幼稚園連盟

日程: 2018年7月23日

5. 全国保育士養成セミナー研修会

目的: 保育新時代における保育者養成

概要: 保育行政の動向と課題、保育の質についての協議、保育実習指導の在り方について協議

主催: 全国保育士養成セミナー

日程: 2018年9月14～16日

6. 乳幼児期のトラウマがその後の人生に及ぼす影響

目的: 乳幼児期のトラウマとその後の人生に及ぼす影響の大きさの認識

概要: 複数のケーススタディと国際シンポジウム

主催: 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

日程: 2018年9月22～23日

7. 平成30年度 全幼教秋季総会並びに研修会

目的: 私学経営と教育政策について情勢分析等の理解と情報交換

概要: 文部科学省現地視察報告及び幼稚園教員養成機関における近年の動向について

主催: 全国幼稚園教員養成機関連合会

日程: 2018年10月25～26日

8. 北九州市保育士会研修会意見交換会

目的: 北九州市における保育士就職支援に関する意見交換

概要: 北九州市における保育士の就職支援に関する意見交換

主催: 北九州市保育士会

日程: 2019年2月20日

## ②指導力の修得・向上のための研修等

1. 児童教育家熊丸みつ子氏による遊び指導(対象1年生)  
目的:身近な素材を活用してのあそびの工夫と指導の理解  
概要:新聞紙を使用してのあそびの実際と電子オルガンでのリズムカルな動きのあそび紹介  
主催:北九州保育福祉専門学校  
日程:2018年4月7日
2. 児童教育家熊丸みつ子氏による遊び指導Ⅰ(対象2年生)  
目的:発達と遊びの関係性とその指導の理解  
概要:外部講師により、実習指導実技として設定保育に役立つ遊びのいろいろを学ぶ  
主催:北九州保育専門学校  
日程:2018年4月21日
3. 児童教育家熊丸みつ子氏による「発達と遊び」指導Ⅱ(対象2年生)  
目的:実習における実際の子どもの触れ合いや設定保育に役立つ取り組みの理解  
概要:実習における設定保育の在り方と子どもの発達とを併せて「あそび」を組み立てる指導  
主催:北九州保育福祉専門学校  
日程:2018年4月27日
4. 性教育(外部講師招聘:西日本工業大学保健室米光真由美先生)  
目的:正しい性の知識と自分自身を大切にす認識を持たせる  
概要:性に関する男女の感覚の違いと性病防止、感染症の紹介と対処について  
主催:北九州保育福祉専門学校  
日程:2018年6月11日
5. 消費者教育(外部講師招聘:苅田町役場消費者教育担当者)  
目的:18歳成人に対し、有形無形の誘惑等からの自己防衛の認識  
概要:町役場の担当者から18歳の成人扱いを受けてその責任の在り様と自己防衛のための予防知識の認識  
主催:北九州保育福祉専門学校  
日程:2018年6月4日
6. 北九州私立幼稚園連盟との教育懇談会  
目的:就職指導のための連盟側や各施設側からの要望や課題に向けての理解  
概要:関連団体としても求める人材像の説明と各施設側の要望説明と全体協議  
主催:北九州市私立幼稚園連盟  
日程:2018年6月27日
7. 救急救命  
目的:救急時の対応と処置等の理解促進  
概要:AEDの扱い講習と心配マッサージの実地訓練  
主催:北九州保育福祉専門学校 苅田町消防署  
日程:2018年9月3~4日
8. 観劇とワークショップ  
目的:一人人形劇から演技(複数的人格表現)の参考と身近な素材を活用しての遊び道具の制作修得  
概要:「赤ずきんちゃん」一人芝居上演と紙コップ、ビニール袋活用での道具類制作とあそび  
主催:北九州保育福祉専門学校  
日程:2018年9月28日
9. 矢野郁子氏(外部講師招聘、専門家)による「ネイチャーゲーム」  
目的:自然環境に親しむこととその自然観察や遊び道具の制作と活用  
概要:近隣の野山の散策と観察、あるいは草笛制作と吹き方指導等のフィールドワーク  
主催:北九州保育福祉専門学校  
日程:2018年10月26日
10. 子育てふれあい交流プラザ見学  
目的:北九州市の取り組み、子育て支援の一環としての子育てふれあい交流プラザでのふれあい交流体験と子育て支援と子ども理解  
概要:行政の行なっている子育て施設の見学と体験を通して子育て支援の現状を学ぶ  
主催:北九州保育福祉専門学校  
日程:2018年11月15日
11. 教育実習における意見交換会  
目的:地区幼稚園連盟の役員との教育実習に係る意見交換を行う中で、双方の理解促進と実習における課題認識  
概要:教育実習に係る課題の提案と協議、求める人材像の提起、今後の教育全般の指導に活かすべく意見交換  
主催:北九州保育福祉専門学校・北九州地区幼稚園連盟  
日程:2019年2月22日

(2)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

1. 全国保育士養成協議会九州ブロック協議会総会  
目的:指定保育士養成校に関する申請整備と教育課程の在り方の検討  
概要:行政説明及び中央情勢報告  
主催:全国保育士養成協議会九州ブロック協議会  
日程:2019年4月27日
2. 令和元年度 全幼教春季総会並びに研修会  
目的:幼児教育に関する運営上の研修と情報交換  
概要:文部科学省講話と幼稚園教員養成機関における近年の動向について  
主催:全国幼稚園教員養成機関連合会  
日程:2019年6月21日
3. 令和元年度 全国保育士養成協議会総会研修会  
目的:幼児教育を取り巻く状況変化への的確な対応  
概要:厚生労働省講話と保育行政全般と指定保育士申請の説明及び中央情勢報告  
主催:全国保育士養成協議会  
日程:2019年6月22日
4. 北九州市私立幼稚園連盟創立記念総会及び研修会  
目的:企業及びその団体の連携を深め、互いの理解促進及び求められる人材像の把握  
概要:NHK交響楽団コンサートマスターの講演と実践発表  
主催:北九州市私立幼稚園連盟  
日程:2019年7月22日(予定)
5. 第21回九州ブロックセミナー大会(鹿児島大会)  
目的:新しい時代の要請に応える保育士養成を考える  
概要:質の高い保育者養成と保育者量的確保実現に向けての課題検討議論  
主催:一般社団法人全国保育士養成協議会九州ブロック協議会  
日程:2019年8月22～23日(予定)
6. 2019年度全国保育士養成セミナー研修会  
目的:保育の質と人間形成への創造  
概要:保育者養成の課題、保育現場の直面している課題、地域社会の子育て支援に関する課題等々の協議  
主催:全国保育士養成セミナー  
日程:2019年8月29～30日(予定)
7. 第22回全国学術集会沖縄大会「童どう宝」～社会で支える親子の成長～  
目的:乳幼児期のトラウマとその後の人生に及ぼす影響の大きさの認識  
概要:複数のケーススタディと国際シンポジウム  
主催:日本乳幼児精神保健学会  
日程:2019年11月23～24日
8. 令和元年度 全幼教秋季総会並びに研修会  
目的:私学経営と教育政策について情勢分析等の理解と情報交換  
概要:文部科学省現地視察報告及び幼稚園教員養成機関における近年の動向について  
主催:全国幼稚園教員養成機関連合会  
日程:2019年10月25～26日(予定)
9. 北九州市保育士会研修会意見交換会  
目的:北九州市における保育士就職支援に関する意見交換  
概要:北九州市における保育士の就職支援に関する意見交換  
主催:北九州市保育士会  
日程:2020年3月(予定)

## ②指導力の修得・向上のための研修等

1. 児童教育家熊丸みつ子氏による遊び指導(対象1年生)  
目的:身近な素材を活用してのあそびの工夫と指導の理解  
概要:新聞紙を使用してのあそびの実際と電子オルガンでのリズムカルな動きのあそび紹介  
主催:北九州保育福祉専門学校  
日程:2019年4月5日
2. 児童教育家熊丸みつ子氏による遊び指導 I(対象2年生)  
目的:発達と遊びの関係性とその指導の理解  
概要:外部講師により、実習指導実技として設定保育に役立つ遊びのいろいろを学ぶ  
主催:北九州保育専門学校  
日程:2019年4月26日
3. 人形劇団「のはな」主宰納富氏によるワークショップ「手袋人形」(対象2年生)  
目的:実習における実際の子どもの触れ合いや設定保育に役立つおもちゃ制作  
概要:実習における設定保育での活用や子どもの遊びに活用し「あそび」を組み立てる指導  
主催:北九州保育福祉専門学校  
日程:2019年6月5日
4. 性教育(外部講師招聘:西日本工業大学保健室米光真由美先生)  
目的:正しい性の知識と自分自身を大切にす認識を持たせる  
概要:性に関する男女の感覚の違いと性病防止、感染症の紹介と対処について  
主催:北九州保育福祉専門学校  
日程:2019年7月11日
5. 救急救命  
目的:救急時の対応と処置等の理解促進  
概要:AEDの扱い講習と心配マッサージの現地訓練  
主催:北九州保育福祉専門学校 苅田町消防署  
日程:2019年9月(予定)
6. 消費者教育(外部講師招聘:苅田町役場消費者教育担当者)  
目的:18歳成人に対し、有形無形の誘惑等からの自己防衛の認識  
概要:町役場の担当者から18歳の成人扱いを受けてその責任の在り様と自己防衛のための予防知識の認識  
主催:北九州保育福祉専門学校  
日程:2019年9月(予定)
7. 観劇とワークショップ  
目的:一人人形劇から演技(複数的人格表現)の参考と身近な素材を活用しての遊び道具の制作修得  
概要:「赤ずきんちゃん」一人芝居上演と紙コップ、ビニール袋活用での道具類制作とあそび  
主催:北九州保育福祉専門学校  
日程:2019年9月28日
8. 矢野郁子氏(外部講師招聘、専門家)による「ネイチャーゲーム」  
目的:自然環境に親しむこととその自然観察や遊び道具の制作と活用  
概要:近隣の野山の散策と観察、あるいは草笛制作と吹き方指導等のフィールドワーク  
主催:北九州保育福祉専門学校  
日程:2019年10月(予定)
9. 子育てふれあい交流プラザ見学  
目的:北九州市の取り組み、子育て支援の一環としての子育てふれあい交流プラザでのふれあい交流体験と子育て支援と子ども理解  
概要:行政の行なっている子育て施設の見学と体験を通して子育て支援の現状を学ぶ  
主催:北九州保育福祉専門学校  
日程:2019年11月(予定)
10. 教育実習における意見交換会  
目的:地区幼稚園連盟の役員との教育実習に係る意見交換を行う中で、双方の理解促進と実習における課題認識  
概要:教育実習に係る課題の提案と協議、求める人材像の提起、今後の教育全般の指導に活かすべく意見交換  
主催:北九州保育福祉専門学校・北九州地区幼稚園連盟  
日程:2020年2月(予定)

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

実践的な職業教育を行う教育機関として、業界団体関係者をはじめ、在学生、卒業生、保護者に対して本校の教育活動その他の学校運営に関する情報提供を行い、本校の取り組みに対する学校関係者評価を実施する。その評価結果により、学校の取り組みに対するより質の高い実践的な教育活動となるように、学校運営上の改善を行う。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	学校の理念・目的・人材育成像は定められているか 学校における職業教育の特性は何か 社会経済のニーズなどを踏まえた学校の将来構想を抱いているか 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが保護者等に周知されているか 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか
(2) 学校運営	目的等に沿った運営方針が策定されているか 運営方針に沿った事業計画が策定されているか 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制は整備されているか 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか 情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針などが策定されているか 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか 学科のカリキュラムは体系的に編成されているか キャリア教育・実践的な職業教育の視点にたったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直しなどが行われているか 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか 授業評価の実施・評価体制はあるか 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 関連分野に関する業界等との連携において優れた教員(本務・兼務を含む)を確保するマネジメントが行われているか 関連分野における先進的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか 教員の能力開発のための研修等が行われているか
(4) 学修成果	就職率の向上が図られているか 資格取得率の向上が図られているか 退学率の低減が図られているか 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、教育活動の改善に活用されているか
(5) 学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか 学生相談に関する体制は整備されているか 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか 学生の健康管理を担う組織体制はあるか 課外活動に対する支援体制は整備されているか 学生の生活環境への支援は行われているか 保護者と適切に連携しているか 卒業生への支援体制はあるか 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか



(6)教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	学生募集は適正に行われているか 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか 学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 予算・収支計画は有効かつ妥当なものといえるか 財務について会計監査が適正に行われているか 財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか 自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者からの評価結果は客観的で広い角度からの視点から得られる貴重な評価である。教員自身に対する自己評価結果や学生による授業評価と照らし合わせることで学内における運営会議や校内教育課程編成委員会や職員会議、学科会議等において十分に吟味し、改善に向けてその具現化に向けて鋭意努力している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和元年6月1日現在

名前	所属	任期	種別
和田 英気	株式会社ニシコン 取締役副社長	平成31年4月1日～令和3年3月31日	企業等委員
久篠 守生	久篠司法書士事務所 代表	平成31年4月1日～令和3年3月31日	卒業生
和田 誠	学校法人 和田学園 苅田第一幼稚園 園長	平成31年4月1日～令和3年3月31日	企業等委員
三笠 直樹	社会福祉法人 緑風会 特別養護老人ホーム 吉富鳳寿園 施設長	平成31年4月1日～令和3年3月31日	企業等委員
舛尾 伸広	特定医療法人 敬愛会 新田原聖母病院 リハビリテーション科副主任	平成31年4月1日～令和3年3月31日	卒業生
八木 哲平	医療法人 あさひ松本病院 リハビリテーション科	平成31年4月1日～令和3年3月31日	卒業生
片山 泰代	医療法人 矢津内科消化器科クリニック 看護師長	平成31年4月1日～令和3年3月31日	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

本校ホームページ 学校情報 毎年8月

<http://tohaya.jp/khfc/sc.info/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

関係者一同による会議を年一回程度設定し、さらに各種関連団体の役員等との意見交換会に参加し、学校の運営方針や学生の就職状況、学校関係者評価結果などを報告し、教育活動の改善に向けての意見交換等を行うことにしている。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・沿革 ・教育方針 ・学則、年間行事計画
(2) 各学科等の教育	・資格取得の内容、シラバス(カリキュラム)、授業科目 ・募集要項(選考方法、収容定員) ・授業に対する学生アンケート
(3) 教職員	・教職員名、担当科目
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・就職・進路状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	・学校行事
(6) 学生の生活支援	・奨学金制度 ・指定寮
(7) 学生納付金・修学支援	・校納金(金額、納入時期) ・奨学金制度
(8) 学校の財務	・資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表
(9) 学校評価	・学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ、パンフレット、募集要項、学生便覧、シラバス

URL: <http://tohaya.jp/khfc/>

授業科目等の概要

(社会福祉専門課程 介護福祉科)平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			人間の尊厳と自立	①社会背景、生活の側面、人生歴等、多角的に個人をとらえる重要性を理解し、個人の尊厳について考える。 ②グループ学習、ビデオ学習、資料の分析を通して、様々な事例の検討をおこなう。人間らしい生活の継続上に介護福祉が成立していることを理解し、また、一人ひとりのスタイルに応じた生活支援(個別性)の必要性について考えていく。	1・前	30	2	○			○			○	
○			人間関係とコミュニケーション	人間関係を構造的に考えるため、発達段階の基礎理論、個々人の主観的な認知世界の存在、一人ひとりの主体的存在意義を学んでいく。また、人間関係がもたらす誤解、ストレスとコミュニケーションの関係についても事例検討を通して理解を深める。援助的コミュニケーションでは、カウンセリングの演習やロールプレイを通して理解の態度の重要性を身につける。	1・後	30	2	○			○			○	
○			社会の理解A	①演習を通して人々の生活の構造、家族や社会のかかわりについて学ぶ。 ②資料やビデオ学習により、現代社会が抱える多様な問題について触れ、介護福祉士の専門的役割を考えていく。 ③今後の大きな課題となる社会保障の仕組みを学び、人々の生活を支える各種制度について知識を積む。	1・後	30	2	○			○			○	
○			社会の理解B	資料、参考書等を参考に、各制度について細かく学んでいく。項目ごとに小テストを実施し、国家試験(過去問題)や対策問題を解きながら理解を深める。	2・前	30	2	○			○			○	
○			社会の理解C	①教科書、参考書、配布資料、過去問題等を通して「人間の理解」「社会の理解」の復習を行う。 ②グループワーク、個別ワークのなかで、復習の範囲を広げ、理解を深める。 ③試験範囲の確認と傾向と対策の説明をおこない、限られた時間での復習ポイントを確認する。 1年次からの領域「人間と社会」の総復習として、コミュニケーション能力、利用者の安全・安楽への配慮点、介護場面での状況判断や洞察力、観察力等が総合的に発揮できるよう応用力を養う。	2・後	45	3	○			○			○	



○		介護の基本C	「介護福祉士」という資格がどのような法律によって成り立っているのか、またその法の中で遵守しなければならないことについて学ぶ。職能団体としての「日本介護福祉士会」の活動を学ぶことにより、将来の自分の介護福祉士像を明確化させる。対人援助職にとって必要不可欠な「倫理」の問題を追求していくことにより、「尊厳」や「自立」とどのように関連しているかが理解できる。介護福祉士にとっての「倫理」とは何かを事例を通して学び、対人援助者として必要な他者への配慮点を具体的に考えていく機会を増やす。	1・後	30	2	○			○		○		
○		介護の基本D	介護サービスとは何かを考え、介護サービスの質の安定性を確保するしくみであるケアマネジメントの概略を学ぶ。また、介護サービスとその提供の場を取り巻く歴史的展開や利用する人々と介護のあり方を明確にする。後半では利用者を取り巻く連携について学び、関連職種や機関の特性を理解する。また、チームアプローチに必要なコミュニケーション方法について学習する。	2・前	60	4	○			○		○		
○		介護の基本E	利用者の「尊厳ある暮らし」を支えるための安全の確保とリスクマネジメントの考え方について理解する。また、介護者自身の健康を守るため、こころとからだの両面から健康管理に必要な知識と技術を習得する。本科目は介護の基本の総まとめでもあるため、専門職業人である介護福祉士像を明確化し、対人援助者として必要とされる、コミュニケーション能力、利用者への配慮、創造性や観察力、洞察力について、自身の学び方を振り返る。	2・後	30	2	○			○		○		
○		コミュニケーション技術A	高齢者や障害をもった人たちがサービスや支援を必要とし、自らの生活課題や問題を解決していけるように支援するには、それぞれにあった方法でのコミュニケーションは欠かせない。介護(食事・排泄・入浴・更衣等)場面のロールプレイを通じて、他者への配慮や細かい変化に気づく観察力を育成し、お互いの信頼関係を形成するための基本的な態度や技術と共にコミュニケーション能力を向上させるよう促す。	1・前	30	1		○		○			○	
○		コミュニケーション技術B	コミュニケーション技術Aで学んだことを踏まえて、利用者の様々な個性と特性を把握して支援方法を考え介護側のコミュニケーションスキルの獲得をめざす。グループワークを通じて各自のコミュニケーションレベルを向上させる。また西日本国際福祉機器展で高齢者や障害者のコミュニケーション機器等に触れ、暮らしを支える福祉用具の重要性とその役割を学習する。	1・後	30	1		○		○			○	
○		生活支援技術A	高齢者や障害者が日常生活を安全・快適に営むことができるための家庭経営、衣生活、食生活、住生活に関する様々な知識と技能を習得し、高齢者や障害者の家庭生活を支援する能力を養う。内容の理解を深めるために、調理実習、裁縫に関する実習を行う。	1・前	60	2		○		○			○	

○		生活支援技術 B	介護福祉士の仕事の原点である「利用者の尊厳と自立(自律)した生活を支える」という観点から、講義により環境整備、移動、食事、身じたく等の生活支援の意義・目的および根拠等の基礎知識を学ぶ。その上で、演習を通して様々な疾患や障害のある方に対しての安全・安楽・自立支援に配慮した基本的な介護技術を習得していく。本科目は、介護技術の習得のみではなく、利用者への配慮や対人援助者として必要なコミュニケーション能力の向上も目指していく。	1・前	60	2				○	○				○
○		生活支援技術 C	介護福祉士の仕事の原点である「利用者の尊厳と自立(自律)した生活を支える」という観点から、講義により入浴、排泄、移動・移乗等の生活支援の意義・目的および根拠等の基礎知識を学ぶ。その上で、演習を通して様々な疾患や障害のある方に対しての安全・安楽・自立支援に配慮した基本的な介護技術を習得していく。本科目は、介護技術の習得のみではなく、利用者への配慮や対人援助者として必要なコミュニケーション能力の向上も目指していく。	1・後	60	2				○	○				○
○		生活支援技術 D	介護福祉士の仕事の原点である「利用者の尊厳と自立・自律した生活を支える」という観点から、講義により清潔保持、睡眠・終末期ケア等の生活支援の意義・目的および根拠等の基礎知識を学ぶ。また、1年次からの介護技術の総復習として、コミュニケーション能力、利用者の安全・安楽への配慮、状況判断や洞察力、観察力等の総合面を確認するため、国家試験の実技試験問題等を参考に応用的な技術を学ぶ。	2・前	60	2				○	○				○
○		生活支援技術 E	利用者の生活活動を残存能力・潜在能力の視点で把握し、その方の状態・状況に応じた生活支援を行うための知識・技術および態度を養う授業である。 「若年性認知症」や「発達障害」では、その障害を具体的にイメージできるようDVDを視聴し、「視覚障害」については、ガイドヘルプの演習において自らガイドヘルプ役と利用者役を体験することで、障害と生活の中の不自由さを学び、利用者への配慮の必要性を理解する。	1・後	30	1				○	○	△			○
○		生活支援技術 F	利用者の生活活動を残存能力・潜在能力の視点で把握し、その方の状態・状況に応じた生活支援を行うための知識・技術および態度を養う授業である。 様々な疾患における運動機能障害を具体的にイメージできるようDVDを視聴し、支援方法や障害と生活の中の不自由さを学ぶことで、利用者への配慮の必要性を理解する。	2・後	30	1				○	○				○



○		介護総合演習 I	本科目は、介護実習 I-①に連動した科目となるため、実習先となる施設・事業所の概要を理解した上で、生活支援技術やコミュニケーション技術等、他科目の学習到達度に応じた総合的な学習を行っていく。演習内容によりグループワーク等を取り入れ、自ら考える力や他者とのコミュニケーション能力も養っていきたい。 実習後には報告会を行い、実習からの学びや反省の共有、問題解決の考察を行う中で観察眼を養っていき、次回の実習に向けた個々の課題設定を検討していく。	1・前	45	2	○	○	○										
○		介護総合演習 II	本科目は、介護実習 I-②に連動した科目となるため、実習先となる施設・事業所の概要を理解した上で、実習で必要とされる「介護過程」「生活支援技術」「ところとからだのしくみ」等で学んだ知識・技術を統合していく。さらに事例を通してグループワークを行い、利用者主体、自立支援の観点からの応用力・観察眼を養う。実習後には報告会を行い、個別支援の大切さや問題解決の考察の視点についての専門性を深めていく。	1・後	30	1	○	○	○										
○		介護総合演習 III	本科目は、介護実習 I-③に連動した科目となるため、実習先となる施設・事業所の概要を理解した上で、実習で必要とされる「介護の基本」「介護過程」「生活支援技術」「ところとからだのしくみ」等で学んだ知識・技術を統合していく。事前学習では利用者理解を深めるための症状別関連図や、介護福祉士に必要な薬の知識についての学習を行う。実習後の報告会では、他者へ配慮した質問の仕方や討論の仕方などを養い、個別支援の大切さや問題解決の考察の視点についての専門性を深めていく。また、日帰り研修において、大規模通所介護事業所見学を行い、自立支援にむけた介護福祉士のあり方や役割の理解を深める。	2・前	30	1	○	○	○										
○		介護総合演習 IV	本科目は、介護実習 IIに連動した科目となる。介護実習 Iでの学びの深化と更にその学びを展開し、利用者主体、自立支援の介護現場の実践に即した学習となる。実習後には資格取得時の到達目標に対しての自己評価を行い、自身の人間性、介護観について再考し、介護福祉士のあり方や専門性についての考えを明確にしていくことで、介護職のエキスパートとして自覚できることを目指す。	2・後	15	1	○	○	○										
○		介護実習 I-①	・厚生労働省の示す「実習施設・事業等(I)」の枠組みに基づき、通所系サービス(通所介護または通所リハビリテーション)での実習を8月中旬より12日間行う。 ・実習先は事前に許可を受けた実習受け入れ施設等を検討し、1施設1~2名ずつの学生配置を行う。 ・実習中は、実習指導者や職員からの助言・指導を受けながら、利用者とのコミュニケーションを図ったり、実際に介護業務を体験したりすることで、施設利用者へ配慮することの大切さを学ぶ実習とする。	1・前	90	2	○	○	○	△	○	○							



○		介護実習Ⅰ-②	<ul style="list-style-type: none"> <li>厚生労働省の示す「実習施設・事業等(Ⅰ)」の枠組みに基づき、入所型施設(指定介護老人福祉施設、介護老人保健施設)実習を11月下旬より12日間行う。</li> <li>実習先は事前に許可を受けた実習受け入れ施設を検討し、1施設1~2名ずつの学生配置を行う。</li> <li>実習中はアセスメント対象利用者を一人決め、情報収集(アセスメント)を行うことで、観察眼の育成に努め、利用者の状態像を把握する。また、安全・安楽に配慮した支援や介護技術の重要性を学ぶ実習とする。</li> </ul>	1・後	90	2					○	○	○	△	○	○
○		介護実習Ⅰ-③	<ul style="list-style-type: none"> <li>厚生労働省の示す「実習施設・事業等(Ⅰ)」の枠組みに基づき、認知症対応型共同生活介護(グループホーム)、または障害者支援施設での実習を6月中旬から12日間行う。</li> <li>実習先は、事前に許可を受けた実習受け入れ施設等を検討し、1施設1~2名ずつの学生配置を行う。</li> <li>情報収集⇒アセスメント⇒課題の明確化を行い、利用者の全体像およびニーズ(生活課題)の把握に努めることで個別性の理解を深める。また個々の状態に応じた安全・安楽に配慮した応用的な支援や介護技術の実践を学ぶ実習とする。</li> </ul>	2・前	90	2					○	○	○	△	○	○
○		介護実習Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>厚生労働省の示す「実習施設・事業等(Ⅱ)」の枠組みに基づき、入所型施設(指定介護老人福祉施設、介護老人保健施設、特定施設)での実習を9月~10月にかけて24日間行う。</li> <li>実習先は事前に許可を受けた実習受け入れ施設等を検討し、1施設1~2名ずつの学生配置を行う。</li> <li>介護実習の集大成として、介護過程を展開する。他科目で学習してきた知識や技術を総合し、個別ケアを行うためにアセスメントを行い、介護計画の立案、実施後の評価や、これを踏まえた計画の修正といった一連の介護過程の展開を行う実習とする。</li> </ul>	2・前	180	4					○	○	○	△	○	○
○		発達と老化の理解Ⅰ	<p>皆さんが介護福祉士として出会うことになる高齢者の方々は、生まれて現在に至るまでの人生を歩んできました。皆さんは、それまでの人生の過程や経験、そして歳月そのものが今の個々人の心と身体にどのような影響を与えてきたのかを理解する視点が必要とされます。本講義では「今」を理解するために必要となる「生涯発達」の視点を学び、「その人」一人一人と出会いケアを行うための素地を作ります。</p>	1・前	30	2	○				○				○	





○		医療的ケアⅡ	介護職による喀痰吸引(口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部)について、安全・適切に実施するための基礎的知識や技術を習得する学習とする。 ・喀痰吸引が具体的にイメージできるようDVDなどの視聴覚教材や、実際の器具なども取り入れながら学ぶ。 ・喀痰吸引を受ける方の心身の苦痛に配慮できる、コミュニケーション技術・観察力を学ぶ。	2・前	30	2	○		○	○								
○		医療的ケアⅢ	介護職による経管栄養(胃ろう・腸ろう経管栄養、経鼻経管栄養)について、安全・適切に実施するための基礎的知識や技術を習得する学習とする。経管栄養が具体的にイメージできるようDVDなどの視聴覚教材を用い、単に手技のみではなく、医行為を受ける利用者・家族に対する配慮や、医療的ケアに関する観察視点などについても学んでいく。また、実際の器具なども取り入れながら学習する。	2・前	30	2	○		○	○								
○		医療的ケア演習	・「喀痰吸引」について、口腔5回、鼻腔5回、気管カニューレ5回の実技演習を行う。 ・「経管栄養」について、胃瘻または腸瘻5回、経鼻カテーテル5回の実技演習を行う。 ・「喀痰吸引」「経管栄養」を受ける方の心身の苦痛に配慮できる、コミュニケーション技術・観察力を学ぶ。 ・救急蘇生法の実際を学ぶ。	2・通	30	1	○		○	○								
合計		49 科目			単位時間( 89 単位)													

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。